



# さくらんぼだより

2月号

平成31年2月1日

社会福祉法人 北杜福祉会 西多賀チャレ一保育園

## 一人ひとりの子どもの力を信じて

この冬はやはり暖冬？いつになったら雪遊びができるのやら…。時折チラチラと舞い散る雪に大はしゃぎはするもののすぐに消えてなくなる雪に“あれ～？”といった様子の子も達です。でもその分、園庭で大好きな鬼ごっこやサッカーなどを楽しみながら思いっきり走りまわって遊ぶことができ、雪のない冬でもそれなりに楽しんでいる子ども達です。

でも、やっぱり冬は雪が欲しいですね。雪が降れば降ったで、雪かきなどで、大人は大変ですが、子ども達にはいろんな体験をしてほしいと思うと、雪よふれ～！といった心境です。“さむいよ～”“おてて、つめた～い！もう、おへやにはいる！”等々言いながらも、氷に触ったり、吐く息の白さに気付いたりしながら元気に遊んでいる子ども達。寒さ、冷たさを実感する事で子どもは子どもなりにそうしたことを切り抜ける術を習得していくのではないかと思います。四季を感じる事が少なくなってきた今日、温かい部屋にばかりいたのでは、冬の寒さ、冷たさを乗り切る術も身につかないと思います。

“子どもは風の子”…雪はないけど、寒さにめげず、元気いっぱい遊びまわってほしいと思います。

さて、1月は5歳児スイミー組の懇談会を皮切りに、各クラスの懇談会がもたれました。保育士からは、これまでの保育を振り返りながら、自分のことは自分でやってみようとする気持ちが育ったこと、友だちとケンカをしながらも相手の気持ちに気付いたり、我慢することが出来るようになったこと等、集団の中だからこそ身に付いてきた子ども達の姿などが話されました。また、おとうさん、おかあさん達からは、子どもと向き合い絵本を読んであげたり、子どもの話に耳を傾けたりと、子どもと向き合う努力はしているが日々の忙しさの中では、中々難しいということなどが話され、家事と育児の両立の難しさが垣間みられました。しかし、どのご家庭も子ども達の成長を願い子育てを行っていることが実感でき、とてもうれしい懇談会でした。これからも皆さんと手を取り合って、一緒に子育てを行っていきたくと思います。

あと2ヶ月で子ども達は、進級、そして卒園を迎えます。新しい環境の中でも立ち向かっていけるよう、これまで獲得してきた子ども達の力を信じ、更に成長していけるように、一人ひとりの育ちを支え、見守っていきたくと思います。

2019・2・1 <園長 中館 和子>

## お知らせ



### <おにぎりパーティについて>

日時 2月22日(金)

3歳以上児の子ども達で、おにぎりパーティをします。園の梅の木になった梅を、昨年6月スイミー組の子ども達が塩漬けにしました。その後、赤シソを加え、梅干を作りました。パーティでは、その梅干や、スイミー組で作った味噌を使います。どんなおにぎりになるのか、楽しみです。

### <作品展について>

子ども達が、日々の保育の中で描いてきた絵や製作してきた作品を、クラスごとに展示します。作品を通して、子ども達の成長を、また、年齢ごとの発達を見ていただければと思います。

### <クラス懇談会について>

1月は2歳児、3歳児、4歳児、5歳児クラスの懇談会が行われましたが、残るは0歳児いいおかお組、1歳児ノタン組のみとなりました。今年度最後の懇談会です。是非、参加下さるようお願い致します。

## おねがい

### <発熱後の登園について>

風邪など、体調不良で登園の場合、個別対応で保育を行います。最低基準のなかでの保育士配置で、個別対応が、困難な場合があります。集団保育の中では、感染が拡大することもありますので、体調不良の時には無理をする事のないよう、ご協力をお願い致します。

## 行事予定

2月		
日	曜日	行事
1	金	まめまき会
5	火	発育測定
8	金	1歳児懇談会
15	金	避難訓練 仙台医療学生のオペレッタ鑑賞
21	木	0歳児懇談会
22	金	おにぎりパーティ

3月		
日	曜日	行事
1	金	ひなまつり会
6	水	発育測定
8	金	1年生になるお祝い会
11	月	避難訓練
19	火	誕生会
23	土	卒園式
26	火	修了式



子どもにいくら与えても与えすぎというのがないのが「愛情」です、ということを見童精神科医の佐々木正美氏はご著書の中で言っています。そして、子どもに与えていけないものはめったにありません。好ましくないものを求めているように思えたら、本来与えられるべきものが不足しているはずで、ともおっしゃっていました。先月、2歳児クラスから5歳児クラスまでの懇談会が開かれ、その中でもやはり、スマホやテレビ、ビデオばかり見ているという話がありました。うちの孫たちもご多分に漏れず、私より器用にスマホをいじったり、一人でDVDを付けたりしている状態です。いつも家にいるのであまり遊びを知らないかも・・・という思いで、お手玉を出して、1歳の孫を相手に♪ぎっちょ んぎっちょ・・・♪とわらべうたあそびを始めると、上の孫たちもテレビおわり～！と言ってDVDを止めて、遊びの中に入ってきました。それからはずぐり遊びや膝にのせての触れ合いあそび、順番待ちの時には♪いちにのさんものしいたけ・・・♪と数え歌を歌って待つようになり、大人に遊んでもらうことの方が楽しいことに少しずつ気が付き始めてきています。子ども達は、幼ければ幼いほど身近な大人に関わって遊んでもらうことを望んでいます。スマホを預けたり、テレビを見せておくことは大人にとっては確かに楽なことではありますが、子ども達の心はきっと満たされないものになっていくのではないかと懸念されます。一方的に流れてくる映像を相手にしていたのでは、生身の人間の心は育たないのではないかと思います。日々の生活や遊びの中で、人と関わるからこそ人間としての様々な感情があることに気づき、おとうさん、おかあさんからの温かな愛情も子どもの心にしっかり伝わるのではないかと思います。未来ある子ども達が、便利な機器に振り回され人としての心を失わないように、しっかり向き合い、子ども達の心を育てていきたいですね。



母と子の  
絵本 棚



「ちいさなねこ」 出版社 福音館

ぶん 石井 桃子 え 横内 義

やんちゃな子猫が一人で外へ飛び出し大冒険！一難去ってまた一難。ハラハラドキドキですが、最後は危機一髪のところをおかあさんに助けられて・・・。なんとも元気いっぱいのチェリーの子供達と重なるお話です。



「あさえとちいさいもうと」出版社 福音館

ぶん 筒井 頼子 え 林 明子

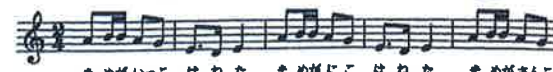
おかあさんに留守番を頼まれて、妹と二人で遊んでいたのですが、夢中になって絵を描いているうち妹がいなくなり・・・。妹を探して走りまわるあさえの緊張感が、痛いほど伝わると同時に、発見した時に妹を抱きしめるあさえの表情から安堵感と共に、妹を思う優しさがじ～んと心にしみてくる絵本です。

言葉の裏に隠された気持ち

久々の休日、孫との食事の時間、あとちょっとで終わるという時に、あっそうだ！ママにごめんね言わなくちゃ。と言ってきた孫。えっ！なにかしたの？と聞くとママ嫌いって言ったの、あつかんべ～！てしたの・・・その表情が何とも言えないほどシュ～ンとして、とても切ない気持ちになってしまいました。本当は大好きなママ。だけど嫌い！と言わざるを得なかったその時の子どもの心境、そして、言うてはみたものの、今度は本当に嫌われたらどうしよう・・・という不安。子どもに限らず大人だって自分の気持ちを分かってほしくてあえて、違うことを言うことがありますよね。小さい子ども達は、気持ちを言葉で言い表すことが難しいので、いろんな表現をします。一概にそのまま受け取ることなく子どもの気持ちを察し温かく受け止め見守ってあげられるような大人でいたいですね。

わらべうたであそぼう

♪まめがはねた♪



まめが いっこ はねた まめが にこ はねた まめが さんこ



はねた まめが はねた まめが はねた まめが いた 「レ」

<遊び方>

・お手玉をたくさんばらまいておいて、は～ねた！の所でお手玉を高くポ～ン！と放る。ま～めがは～ねた ま～めがは～ねたのところではポンポンはじけるように放る。最後のパン！で手をたたく。子どもと手をつないで、ジャンプしても楽しいですよ。